一般入試前期Ａ日程２日目

英　語

Ⅰ

■出題のねらい

自宅の庭で猫を保護した状況についての友人同士の会話に関する問題です。最初に保護した３匹の子猫、その母猫、そしてさらに別の日に保護したもう１匹の子猫、と、登場する猫が次々と増えていきますので、それぞれの猫がどのような状況で保護されたのか、またどのような特徴を持っているのかを注意深く読み分けましょう。

■採点講評

[1] は正答率が87％と非常に良くできており、次に続く Narumi の発話へのスムーズな流れがしっかり把握できている受験生が多かったようです。一方で [4] は正答率が30％あまりでした。本文を読めば、最後に拾った１匹の子猫に他の子猫とは異なる特徴があることがかなりの紙幅を割いて書かれており、１ページの下から６行目には he's the only one not related by blood とはっきり述べられていますので、彼だけが血縁関係にないことは比較的わかりやすかったと思います。正答率が低かった要因は、正答の選択肢④に部分否定が含まれていることかもしれません。Not all of them は all の部分を否定するので、１匹でも血縁関係になければこの記述が正答ということができます。全体否定と部分否定の構造を確認しておきましょう。

Ⅱ

■出題のねらい

海外のマングローブ林ツアーについてのポスターに関する問題です。ツアー内容についての質問に加え、マングローブの説明、環境への配慮など、重要な話題が複数登場しますので、それぞれの項目において大切なポイントを押さえながら読み進めましょう。

■採点講評

[6] は６割程度の正答率でした。[6] の後ろに続く where 以下関係副詞節の部分「海水と淡水が混ざる」というところから salty の入った④を選択してください。一方、[10] の正答率は３割程度と低めでした。正答の選択肢①に使われている単語自体の難易度は高くはなく、内容も本文の下から２～３行目に比較的そのまま書かれているのですが、「動名詞の意味上の主語」が用いられる英文にあまり慣れていなかったのかもしれません。これを機に、動名詞についても再度確認しておくのが良いでしょう。[9] は正答率が66％と、本大問の中最も高かった問いでした。正答以外の選択肢の内容は良く読むと滑稽ですが、使われている単語は本文にあるものですので、多くの受験生がしっかりと選択肢の英文を理解した上で解答してくれていたことがわかります。

Ⅲ

■出題のねらい

英語の基本構文・基本熟語の知識を問う問題です。構文や熟語の知識は、英文法の知識とも関連し、英文読解の基礎でもあります。「なんとなく」ではなく、自信をもって正答を選ぶことができるかどうかが問われています。

■採点講評

大問Ⅲは全体的に、他の大問と比較して正答率が低くなっていました。最も低かったのは [16] で、20％を切っていました。[16] で用いられている do (something) for a living は、「（それで）生計を立てている」、(something) to do with～は、「～と関係がある」という意味で、熟語として覚えておくのが良いと思います。次に正答率が低かったのは [12] の21％でした。選択肢の中にはよく見かけるのでつい選んでしまいたくなる表現（① Due to や③ In spite of など）が含まれていますが、①②③の選択肢はいずれも、後ろには名詞や名詞句が来ます。ところが、空所の後ろに続く Mary opened～は主語・動詞を持つ「文」になっていますので、この３つは真っ先に除外することができます。焦らずに文章を読み進めれば、意味の上で⑤の正答にたどり着くことができるでしょう。構文・文法問題は、覚えなければならないことは多いですが、しっかりと勉強すればきちんと結果に現れやすい部分でもあります。もちろん長文を読むために必要な知識でもありますので、しっかりと学習しておきましょう。

Ⅳ

■出題のねらい

焼き芋の歴史を紐解くところから始まり、焼き芋の海外展開、さつまいもの新しい品種の出現による焼き芋文化の発展までを扱った英文記事です。全体の大まかな流れをざっととらえ、個々の問題で問われる情報を短い時間で正確に見つけ出す力が問われています。ただし、表面的な理解だけでは正答にたどりつけない問題も織り交ぜていますので注意が必要です。論理的な考察力も重要なポイントです。

■採点講評

焼き芋という身近な話題ではありますが、歴史や品種、その展開まで、把握すべき内容が多岐にわたるため、情報の整理に時間がかかったかもしれません。しかし、内容把握や和訳の問題では概ね６割程度と比較的得点率が高く、文意を捉えたり、限られた範囲から情報を見つけ出したりする作業はよくできている受験生が多かったようです。しかし［ 21 ］の適切な表現を選択する問題では、正答率は20％を下回り、英文の文法上の主語を問う［ 25 ］でも正答率は26％程度にとどまるなど、文法や語の用法といった問題での得点率の低さが目立ちました。大問Ⅲの講評でも指摘したように、いわゆる英語の「知識」を問う、あるいは「知識」を活用する問題が苦手な受験生が多いのかもしれません。長文をたくさん読んで文脈把握力を養うと同時に、文法や熟語に関する知識もしっかりと身につけましょう。

V

■出題のねらい

ベルギーの首都、ブリュッセルについて説明した英文です。国名や言語名などの基本的な英語の知識に基づいて、情報を混同しないよう正確に整理する力が求められます。並べ替え問題では文法的知識だけでなく、文脈に合わせて接続詞を選択する問題など、文章の論理を正確に読み解く必要があります。

■採点講評

本大問も大問Ⅲ、Ⅳと同様、文法の知識が必要となる並べ替え問題 29 30 31 で、正しい答えを導けた受験生の割合が相対的に少なかったといえます。特に 31 の正答率は30％を切っていました。文頭の並べ替えですのでもともと難易度は高めの問題ですが、こういった場合はいきなり並べ替え始めようとせず、まずは文全体を見て、どのような構文があり得るのかを大まかにイメージしてから正答の可能性を探りましょう。 31 の場合、不必要な選択肢は① as if ですが、いかにも必要になりそうな選択肢に見えるかもしれません。しかし、接続詞が① as if と② though の２つありますので、どちらかは排除できるかもしれないという可能性を頭においた上で文全体を考え、最終的には文意から①が排除できると判断してください。